



吉田 貞裕氏



平方 貞之氏



西村 信洋氏



佐原 謙次氏



吉田 達弘氏



渡辺 崇史氏



増江 世圭氏



吉田 香央里氏



野地 伸卓氏



清水 文孝氏



古谷 隆明氏



中村 正治氏



三原 聖史氏

西村信洋氏(東京木材相五市場社長、東京都、54歳)は、2024年末に創立49年になる同社吹上市場の単式化に踏み切った。「時代と価値観が激しく変わり、ついでにいくのがやっ」と危機感を募らせる。

そのなかで業績を伸ばすには他社との差別化が必要だが、「社員にワクワク感がなくなると窮屈になり、成長余地を感じる社員がいなくとも生き残れない。人を大切に育て、仕事をひとつずつ丁寧になしていくしかない」と語る。

平方貞之氏(平方木材取締役営業部長、前橋市、39歳)は、幅広い事業を展開しつつ、市場の機会がある分野に集中的にリソースを配置していくべきと考えている。

特に、非住宅、物流、商品性能の向上、DX、カット工場の体制を継続・強化しつつ、顧客

と一丸となって木材流通を担っていきたくと考えている。

渡辺崇史氏(金平専務、栃木県宇都宮市、39歳)は、地域に必要な木材を確保し、仕入れ先の製材工場、販売先の小売店との関係を強化する一方、拡大が見込める非住宅市場の開拓に力を入れている。

取引先との関係強化では、栃木県で木材青壮年団体の立ち上げを計画し、会長就任を予定している。製材工場のある北関東製材協議会のメンバーを軸に小売店にも参加を呼び掛け、設立時には20社程度の集結を見込む。

非住宅市場では、製材工場と建設会社との間にあって資金繰りを支援する機能が定着し、公共建築での納材実績が順調に増えている。

吉田達弘氏(ヤマガツ組、社長、名古屋市中村区、51歳)は、2012年

蔵の事業譲渡を受け、森林総研と特許使用に関する許諾契約を結び、事業化へ本格的に取り組んでいる。

グループのプレカット会社は、プレカットの受注競争が激しくなるなかで、プレカットでいくかに収益を上げていく。構造計算などの業務を拡大してきたことで、構造計算から一貫したプレカットの流れをどうつづけていくかが課題だ。

野地伸卓氏(noj imoku社長、三重県熊野市、46歳)は、熊野材の普及を担う熊野林業会会長の務めとして、製材教育ボードゲーム「セイザイゲイ」の開発に携わった。

会社は松、杉の役物内外装製品が主力製品で、昨夏には情報発信力を強化するため熊野市内に自社製品のショールーム「木庵座」をオープンした。

今後は自身の成長を含む人づくりと組織づくりにも力を入れる方針で、10年間は人づくり、製品開発、財務体質の改善を進め、環境変化への対応を課題に挙げる。

吉田香央里氏(板蔵ファクトリー社長、岐阜県瑞穂市、41歳)は、吉田芳治(ヤマガタパカラバレーカー)と都大経済学部を卒業して大建工業(現DA IKEN)に入社し、3年ほどマーケティング部で商品開発に携わった後、ヤマガタパカラに入社し新規商品開発に携わっている。

で活用されている。

金沢市内で「ノトリパカラバレーカー」と「ウッドスタイルカフエ」も運営しており、内装やカフェ内の子ども用遊戯スペースのおもちゃに能登ヒバなども携わっている。

清水文孝氏(丸紅木材社長、大阪市、46歳)は、2006年に5代目社長に就任。

中村正治氏(サニーライフホールディングス社長、富山県高岡市、56歳)は、中央大法学部を卒業後、伊藤忠建材に勤務し、1993年に南陽(現・南陽吉久)に入社し、1997年2月に社長に就任した。

2016年に中村社長としてはグループ全体の方向性を定める一歩、グループのほとんどを競争力を高める考えで、三原聖史氏(スガノ社長、広島市、46歳)は、2000年に入社し、21年には創業の営

増江世圭氏(加賀木材社長、石川県金沢市、52歳)は、学卒後江間忠合板を経て2002年10月に加賀木材に入社。10年10月から社長を務めている。

能登ヒバを活用した商品開発に力を入れ、「NOTOHIIBAKARA」としてブランド化。なかでも、アロマオイルは自社工場で製造している。

不燃木材「もえんげん」は石川県産材を中心にさまざまな地域材

防腐加工木材 在来・金物プレカット加工 木製公園遊具

さんもく工業

公式HPはこちら

Wood Wooder Woodest

MARUMI SANGYO Co., Ltd.

資材事業本部・国際貿易部 西部港物流センター/愛知県海部郡飛島村木場1-32 TEL 0567-55-0161 FAX 0567-55-1606 <https://shizai.marumi.com/>